**地理歴史科（世界史Ａ）学習指導案**

指導者　　藤　まりこ

１履修単位数 ２単位

２実施日時 令和２年９月２４日（木）　第６時限

３学級　　　　　３年４組（８名）・３年５組（11名）

４　使用教科書 　 高等学校改訂版世界史Ａ（第一学習社）

５　単元名 　　　 歴史の扉を開けよう

６単元設定の理由

＜生徒観＞

　本学級は理系クラスの世界史Ａ（日本史Ｂ）選択者の学級である。活発な生徒が多く，授業者の発する問いかけに対し自ら思考し表現しようと熱心に取り組んでいる。今年度５月に行った授業に関するアンケートでは「歴史科目への関心度が高い」と答えた生徒は９割を超えている。また「地理的な視点で歴史を見たり考えたりすることを意識しているか」という項目に約７割が当てはまると答えており，昨年の授業でも本校地理歴史科が取り組んできた地図や地形等の読み取りといった地理的な視点を含む学習が歴史的事象を学ぶにあたって不可欠であることを実感している生徒が多いといえる。一方で「史資料の読み取りが好き（得意）か」は約５割，「歴史的な視点から現代社会とのつながりを意識しているか」は約３割となっている。本学級の生徒は総合的な学習の時間やＳＳＨの課題研究で実験・観察・データの分析や作成といった経験を積んでいるが，歴史に関わる資料を扱った研究活動の経験は殆どない。したがって本単元の学習においては身近なものの歴史を題材として，史資料の収集方法や用いた史資料によって生じる解釈の差異等を体験的に学ばせ，歴史の学習をはじめ学問に対する関心，情報収集と活用能力，思考・表現・判断力，それらをもとに幅広い知識・理解を習得させた上で，現代の諸課題とつなげて思考できる力を身に付けさせたい。

＜教材観＞

　基軸となる問いに対して自ら史資料を活用して答えを導くことを目標とする本単元において，どのような史資料を活用するかが生徒の関心や研究活動の進展に大きく影響する。生徒にとって身近な題材でかつ日本そして世界とのつながりも感じられるもの，また自然環境や産業等の地理的要素による地域の形成についても理解できるもの，というように地歴各科目の結びつきを生徒が実感できる史資料が必要となる。さらには地歴科だけにとどまらず，例えば藍産業の発展や藍の価値を考察するにあたり，理科や芸術等の他教科に関する資料も有効である。学校の図書室や校外の図書館・資料館等の史資料も含めて，あらゆる分野の史資料が生徒の考察の深化につながる。様々な史資料が考察の手がかりや仮説の裏付けになることに気付かせることで，生徒の学習意欲を一層向上させ，幅広い視点から思考を組み立てる力を習得させたい。

＜指導観＞

　身近な題材に関する具体的な数値や産物，地図等の関心を持ちやすい史資料から段階を踏んで体験しながら学ばせ，史資料活用に対する難解なイメージを払拭させる。そして多様な史資料に触れるなかで，本単元の基軸となる問い「徳島の変化」について近代前後の藍産業の推移，他地域・他国との関係性や現在とのつながりといった歴史的な見方・考え方を身に付けさせる。自己の研究に必要となる史資料や先行研究を多面的に探しそれらを比較したり批判的な視点も含めて考察したりする能力は，文科系・理科系問わず求められる能力である。本単元の一連の活動を通じて，思考の組み立て方を学び，答えを導いていく達成感を実感させ，こうした学習が今後の諸活動にも活かされることを理解させる。

７　単元の目標

　徳島の特産品である藍を題材にして，世界そして日本でおこった近代化が徳島に与えた変化について，自らで複数の史資料にあたり，考察したことを表現することができる。そして現在の徳島との結びつきを見出して歴史を学ぶ意義や現在の徳島が抱える諸課題の改善や解決に向けて多面的・多角的な視点を持つことの大切さに気付くようにする。

８　単元の位置づけ

本単元は現行課程｢世界史Ａ｣（１）世界史へのいざない　イ　日本列島の中の世界の歴史　の学習内容に位置づけられる。また新課程「歴史総合」Ａ　歴史の扉（１）歴史と私たち　を踏まえたものである。なお，今年度も「世界史Ａ」「日本史Ａ」の共通する学習項目については地理歴史科の担当者が共同で授業づくりを行っており，本単元の内容は現行課程「日本史Ａ」においては（１）私たちの時代と歴史　に位置付けられる。

基軸となる問い：19世紀末から徳島にはどういう変化が起こったのか。それはなぜか。

９　単元の評価規準

【新課程】

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・自身の課題を踏まえ，必要な資料を収集，選択し，読み取った内容をまとめている。  ・19世紀末からの徳島の藍産業の発展や地域の状況の変容について，日本や世界の変化と結び付いていることを理解している。 | ・地形に着目し，徳島の産業や物流の特徴を考察し，表現している。  ・世界と日本の産業革命に着目して，19世紀末からの徳島の藍産業や物流の仕組みの変化について考察し，表現している。 | ・徳島の事例を基に，地域と世界や日本の歴史とのつながりを見出そうとしている。  ・歴史の学習の方法などについて，自らの学習の方法に新たな気づきを加えようとしている。 |

【現行課程】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| ・徳島の事例を基に，地域と世界や世界の歴史とのつながりを見出そうとしている。  ・歴史の学習の方法などについて，自らの学習の方法に新たな気づきを加えようとしている。  ・意欲的に史資料に触れようとしている。 | ・地形に着目し，徳島の産業や物流の特徴を考察し，表現している。  ・世界と日本の産業革命に着目して，19世紀末からの徳島の藍産業や物流の仕組みの変化について考察し，表現している。 | ・自身の課題を踏まえ，必要な資料を収集，選択し，読み取った内容をまとめている。 | ・19世紀末からの徳島の藍産業の発展や地域の状況の変容について，日本や世界の変化と結び付いていることを理解している。 |

10　指導計画　　単元名　歴史の扉を開けよう　全５時間　　※現行課程による評価規準

　　第１時　「問い」への「答え」を導くのに必要なのは、どのような史資料か（本時）　【技】【思】

　　第２時　他者が述べる「答え」を比較しよう　【技】

　　第３時　史資料に触れよう　【技】【思】

　　第４時　情報を共有しよう　【関】【思】

　　第５時　「問い」に対するあなたの「答え」を出そう　【思】【知】【関】

11　単元の指導計画　　（●…「学習改善につなげる評価」，○…「評定に用いる評価」）

【基軸となる問い】　19世紀末から徳島にはどういう変化が起こったのか。それはなぜか。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時程 | 学習活動 | 関 | 思 | 技 | 知 | 評価規準等 |
| 第一時 | 【本時の問い】　「問い」への「答え」を導くのに必要なのは，どのような史資料か  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・「歴史＝当時の人びとの生きた証」であることを意識する。  ・身近な歴史である「徳島の繁栄とその後の変化」について，古地図をもとに読み取る。  ・【基軸となる問い】の「答え」を導くために，どのような史資料が必要になるかを考察する。 |  | ● | ● |  | （評価資料）：ホワイトボード，発表  ●古地図から物流の仕組みを読み取っている。  ●既習の知識や柔軟な発想から「答え」を導くのに必要な史資料とはどのようなものかを考察し，ホワイトボードに記入している。 |
| 第二時 | 【本時の問い】　他者が述べる「答え」を比較しよう  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・本校の２年生のレポートから，扱う史資料によって「答え」に違いが生じることを読み取る。 |  |  | ● |  | （評価資料）：ワークシート，発表  ●同世代の生徒がまとめたレポートの内容やまとめ方と，前時で自分が着目した点との違いを読み取っている。 |
| 第三時 | ・第一時の活動で出された意見をもとにグループを編成する。調べるテーマについてまずは個人で史資料を探し，読解する。  ・必要だと思われる史資料を取捨選択して読み取った内容をワークシートにまとめ，さらに400字程度のレポートを作成する。 |  | ○ | 【本時の問い】　史資料に触れよう  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ● |  | （評価資料）：ワークシート，レポート  ●自分の必要とする史資料を探し，その内容を読み取っている。  ○読み取った内容をワークシートにまとめ，レポートを作成している。 |
| 第四時 | 【本時の問い】　情報を共有しよう  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・グループ間で各自のレポートを比較し，内容の差異を確認した上でグループとしてのレポートを作成する。 | ● | ● |  |  | （評価資料）：レポート  ●他者のレポートの内容との差異を確認する中で，自分の学習を振り返り，レポートをよりよく作成しようとしている。  ●同じテーマで調べてもレポートの内容が異なることを体験的に学んだ上で，さらに深化したレポートを作成している。 |
| 第五時 | 【本時の問い】　「問い」への「答え」を出そう  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・他のグループがまとめたレポートを全て合わせて，【基軸となる問い】の「答え」を各自が見出し最終レポートを作成する。  ・単元の学習を振り返り，今後の歴史の学習にどのように生かしてしていくのかということについてまとめる。 | ● | ○ |  | ○ | （評価資料）：レポート  ○19世紀末からの徳島の藍産業や物流の仕組みの変化について考察し，表現している。  ○19世紀末からの徳島の藍産業の発展や地域の状況の変容について，日本や世界の変化と結び付いていることを理解している。  ●地域と世界や日本の歴史とのつながりを見出そうとしている。  ●学習の方法を振り返り，次の歴史の学習につなげようとしている。 |

12　本時の指導計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学習活動における具体的な評価規準 | 評価方法 |
| 導入  ５分  展開  １  20  分  展  開  ２  20  分  まとめ  ５  分 | ・「歴史＝当時の人びとの生きた証」であることを意識する。  ・身近な歴史である「徳島の繁栄とその後の変化」について，古地図から情報を読み取る。  【本時の問い】　「問い」への「答え」を導くのに必要なのは、どのような史資料か  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・【基軸となる問い】の「答え」を導くために，どのような史資料が必要になるかを考察する。  ・本時のまとめをする。  ・次回予告を聞く。 | ・昨年の夏季休業中に各自が取り組んだ「徳島に関するミニレポート」や地元の遺物等の身近なものを例に挙げて理解を促す。  ・机間指導の際に，生徒が古地図と物流に着目して読み取りを行っているかを確認し，苦手とする生徒には程度に応じて助言する。  【基軸となる問い】19世紀末から徳島にはどういう変化が起こったのか。それはなぜか。  問い ： メディアはどれほどの影響を国民に与えたか。  ・考察が進まない生徒には，１学期の世界史Ａの授業で学習した内容（産業革命や貿易）を想起させて，思考を助ける。  ・本校２年生のレポートを用いて，「問い」に対する「答え」が書き手によって異なるのはなぜかを次回考えることを予告し，生徒に関心を持たせる。 | ・古地図に関心を持ち，物流の仕組みに関係がありそうなものを読み取っている。  （川や海の存在，古地図内の但書に気付いている）　　　　　　　　【技】  ・19世紀末という時期に着目し，世界や日本の産業革命等の既習の知識を用いて「答え」を導くのに必要な史資料とはどのようなものかを考察している。　　　　　【思】 | ・ホワイトボード  ・ホワイトボード  　発表 |

13　本時の評価規準に対する指導の例　【思考・判断・表現】

|  |  |
| --- | --- |
| 評価Ｃの生徒に対して  「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て | これまでの世界史Ａや日本史Ｂの学習内容と今回の学習が結びついていないと考えられるため，机間指導の際には口頭だけでなく教科書等を用いて視覚で理解させる等，生徒が思考しやすい状態をつくる。 |